

高田高校令和7年度 SSH 韓国研修レポート

① 目的

- ・ 高度な表現力や国際性など、国際的に活躍できる科学技術人材に必要な素養を育てる。
- ・ 世和高校、POSTECH、POSCO での交流や施設見学を通し、科学的探究心を育てる。
- ・ 韓国の学生・起業家・社会人等様々な人と交流をすることで、研究や企業の取組の意義について学び、国際的な社会貢献についての意識を高める。

② 参加者

高田高校2年生 11名、引率教員 2名

③ 日程

- 2025年12月 22日 移動日 上越→成田空港→大邱空港→浦項市（ホームステイ）
23日 現地高校生とのサイエンス・文化交流（課題研究発表）
浦項工科大学訪問（大学見学・起業家の講義）（ホームステイ）
24日 POSCO 見学
25日 移動日 大邱空港→成田空港→上越

④ 写真



【22日 世和高校の歓迎会】



【23 日午前 世和高校での発表】



【23 日午後 POSTECH 起業家との質疑応答】



【24日 POSCO 企業見学】

⑤ 生徒の感想（一部抜粋）

生徒1

この韓国研修を通して気づいたことは、伝えようとする気持ちが大切ということです。韓国の生徒に会うまでは、英語が伝わるかすごく心配でしたが、拙い英語でしか会話ができない私の話を一生懸命聞き取ろうとしてくれてとても嬉しかったです。伝えることが難しいなと思った内容でも想像していたよりもスムーズに理解してくれたり、逆に理解が容易だろうと思っていたことが、うまく伝わらなかったりということがありましたが、どうしたらうまく伝わるんだろうと工夫しながら会話して意思疎通ができたとき、とても喜びを感じました。

また、ホストファミリーや韓国の先生、生徒のおもてなしのレベルの高さに驚きました。特にびっくりしたのは、ホームステイ先にお邪魔したときに誕生日をお祝いされているような豪華な飾りつけをしてくれたことです。そこから一気に緊張が解け、会話がしやすくなったことを覚えています。

このことから、初対面の人と会う時には相手が喜ぶことをすることで、ぐっと距離が縮まるんだなということを改めて感じました。同じ国に住む人とずっと一緒にいると気づきませんが、海外の人と話すことで、コミュニケーションの基礎を再確認できたと思います。

生徒2

この研修を通して、私が特に成長できたと感じていることは、大きく2つあります。

1つ目は、間違いを恐れずに英語で積極的に話しかける姿勢です。自分の英語の発音の拙さや文法の誤りによって、思うように伝わらず、もどかしさを感じる場面も多くありました。しかし、そういった経験によってしか、英語力は、向上しないと思うので「完璧でなくても伝えようとする事」を大切にしていきたいです。

2つ目は、プレゼンテーション能力の向上です。今回の研修では、先生方から多くの具体的なアドバイスをいただきました。聞き手を退屈させない工夫として、難しい内容をできるだけ分かりやすく伝えること、相手の反応を見ながら進めること、抑揚をつけたり問いかけをしたりすることの重要性を学びました。また、アイコンタクトや声量といった基本的な点についても、意識して改善することができました。

研修に参加する前は不安な気持ちが大きかったのですが、研修を通して自信がなくても、未知の世界に思い切って飛び込むことでしか得られない成長があることに気づくことができました。母語が異なっても、英語を通じて海外の人とコミュニケーションを取ることで、英語という言語の持つ素晴らしさを改めて実感しました。

生徒3

かつてないほど流動的な現代社会において、もはや脱亜論は通用しません。お互いが利害を持つ日韓関係を持続させるためにバランスの取れた外交を推進し、粘り強く対話し続けることが重要だと思いました。そして私が知りたかった等身大の韓国は、あまり日本と変わらないと感じました。どちらも勝手に相手に期待して、期待が破れれば勝手に落ち込む。これが続いてきたということは、少なくともお互い失望していないという事だと思います。日韓友好という前途多難な事業を前にしても、私がワクワクしているのはそれが根底にあるからだと言語化できたことが、今回の研修の一番の成果であると確信しています。困難な暗がりの中であろうとも、平和と友好を願う知性の光は進み続けると確信したことの報告をもって、私の韓国研修の報告に代えさせていただきます。

生徒4

今回の韓国研修を通して、私はさまざまな貴重な経験をすることができました。特に印象に残ったことは、POSCOで、圧延された鉄が大量の水によって一気に冷却されていく工程を見たことです。1つ1つの工程が正確に、そして効率的に進められており、日本や韓国の産業を支える基盤としての重工業の重要性を実感しました。ちょうど学校の化学の授業で金属の性質や熱について学んだ直後だったこともあり、「教科書で学んだ知識が実際の現場でどのように使われているのか」を自分の目で確かめることができ、とても興奮しました。

さらに、起業家の講演では、異なる文化を持つ人々と関わりながら、若いからこそ直面する困難を信頼関係によって乗り越えてきた経験を聞くことができ、大きな刺激を受けました。大学での学業と起業を両立されていることに感銘を受け、私自身が受験勉強と部活動、学校行事を並行して行う中で意識すべきことについて質問したところ、「なぜそれらに取り組むのかという目的を考えることが大切だ」という言葉をいただきました。ただ忙しくこなすのではなく、目的意識を持って行動することの重要性に気付くことができました。

生徒5

この韓国研修で最も印象的だったことは、心配していたことでも意外と何とかなるということです。

私の主な心配事は、初めて会った人と話すのが苦手なのに、韓国の生徒たちと仲良くなれるのだろうかということでした。日本人の初対面の人と話すことさえ不安を感じるのに、言語の違う韓国人の初対面

の人と話すのはさらに不安でした。

2日目には、韓国の生徒たちは皆とても親切でフレンドリーだということにも気づきました。私のホームステイ先の生徒も2日目には翻訳アプリの使用頻度が減り、アプリなしで英語で会話することが増えました。翻訳アプリ無しでの会話はとても理解することが難しかったです。しかしながら、アプリ無しでの会話は非常に楽しく、嬉しいものでした。私は、自分の言葉で話すことは、日本語で話すときだけでなく、母国語以外で話すときにも重要だと考えます。なぜなら、母語以下の言語で話すことは、自分にとって相手にとっても大変なことであり、私たちはどうにかして自分の気持ちや考えを表現しようともがくからです。

生徒6

私はこの研修を通して、異文化交流をするために1番大切なものは、勇気を出して話してみることだとわかった。

研修中、一緒に数日間生活したホストファミリーのみなさんはもちろん、先生、お店の人、タクシーの運転手さんなど、たくさんの方とコミュニケーションをとる機会があった1日目は久しぶりの再会で嬉しい気持ちもありつつ、緊張していて会話もぎこちなかった。しかし、2日目の文化交流やプレゼンの中で、自分の言いたいことが伝わったときや同じ気持ちを共有できたときの達成感を何度も実感し、英語を使うことの不安や抵抗感が薄れた。3日目の観光の時間では、もう英語を使うことにほとんど抵抗感がなく、バスの中や街を歩いているときお互いの趣味や文化の違いに関してたくさん話し、ときには冗談を言い合えるくらいまで絆を深めることができた。こうした中で、多少間違った言葉を使っていたとしても、少し勇気を出して話してみれば、コミュニケーションをとって交流を深められることがわかった。もっと英会話の技術を向上させて、お互いにストレスなく会話ができるようになりたいと思った。

生徒7

私は韓国研修に行けることになった際、韓国の友達ができることをとても楽しみにしていました。しかし、出発の前日や、当日ホストファミリーの子に会うまでは「ちゃんと話せるかな」、「意思疎通できるかな」と不安を感じていました。しかし、先ほども述べた通りみんなとても優しく、知っている日本語をたくさん話してくれました。私もできるだけ英語や韓国語で話すようにしました。きっと発音や語順はぐちゃぐちゃだったと思います。でも、みんな一生懸命理解しようとしてくれて、ちゃんと伝わったときはとても嬉しかったです。ホストファミリーの子も英語も日本語もペラペラと言うわけではありませんでした。どうにか伝えようと韓国語、英語、日本語をまぜまぜで話していました。これが私にとってとても楽しかったです。もちろん、翻訳アプリに頼る場面もありました。しかし、黙って画面を見せるだけより、完璧でなくてもいいから自分の声で伝えることがとても大事だと思いました。

生徒8

今回韓国研修に参加して、本当にたくさんの新しいことを目にして、体験することができました。postecを見学した際に私たちを案内してくれた大学生の方は、とても英語が上手な方でした。しかしその方は留学の経験はなく、完全に自分の努力だけで英語を話せるようになったと話されていてとても驚きまし

た。そして英語で説明を受けている間は理解できない部分も多く、自分の英語力の低さを痛感しました。またそれと同時に英語を話せるようになれば、その学生さんと私たちのように国際的な交流ができ、視野が広がると強く感じ英語で話せるようになりたいと改めて思いました。

ホームステイ先の子と一緒に移動する際には基本的にバスかタクシーを利用しました。浦項市が上越市と比べて都会だったことも関係しているかもしれませんが、日本ではタクシーはお金がかかる乗り物というイメージがありあまり利用することがないので、タクシーの利用頻度の高さに驚きました。

また私のホームステイ先のお家は床暖房が入っていてとても暖かく、エアコンの必要がないほどでした。日本はエアコンが主流のイメージがありますが、床暖房の方が空気が乾燥しないため日本でも普及してもほしい技術だと思いました。

生徒 9

現地の生徒やその家族をはじめとしたいろいろな方々と関わっていく中で、私は言語など無くても感謝、伝えようと言う意志、聞こうという意志などの「気持ち」があれば、大抵のことは伝わることができました。そこからは全てが楽しく、感動的なものでした。知らない人、知らない文化、知らない言語と向き合うという今までない経験にも、気持ちがあれば乗り越えられる、という思いから積極的に、社会的に立ち向かえるようになりました。特に、世和高校で過ごした時間では、短い時間では荒れましたが、多くの知らない人と、英語も上手に伝わらないような環境で、絶え間ないほどコミュニケーションを取れましたし、日本に帰国した今でも連絡を取り合えるような関係性になりました。

そして、三日目の夜、仲が深まった彼らと会えるのはあの時間が最後でした。彼らはケーキを用意してくれて、夜遅い時間なのにホテルまで来てくれて、本当に情の厚い人たちなのだ、と感じました。そして、別れの時、あまりに韓国で友達と過ごした日々が楽しくて、彼らとハグを交わした時に、その楽しい思い出が頭に流れてきて、思わず泣いてしまいました。あまり私は泣くことがないので、自分でも不思議な感覚になりましたが、自然と納得できるほどに素晴らしい韓国研修でした。

生徒 10

4日間という少ない期間でしたが、現地の生徒との親密な友好関係も築け、本当に楽しい韓国生活を過ごせました。その中でも印象に残ったことが3つあります。

一つ目は韓国の人々の人間性です。第一に、優しい人がとても多かったです。私は基本的に、夜の自由時間では、私と世和高校の生徒2人の3人で行動していたのですが、絶えず“What do you want to do?”と私に寄り添った声掛けをしてくれて、私が行きたいと言ったところを文句ひとつも無く、全て回ってくれました。

二つ目は日本文化の素晴らしさです。日本文化と言っても、私が特に印象に残ったものは、アニメについてです。実は、私のホームステイ先の両親は、初対面がジブリ作品の「崖の上のポニョ」での出会いだったらしく、それをきっかけにお付き合いをして、結婚をされたそうです。このように、日本の文化は、国と国、人と人を繋げる画期的なアイテムのひとつなのだと感じました。

三つ目は POSTECH での講義についてです。私たちはそこで、大学の概要や、施設の説明、そして、その大学出身のスタートアップ起業家の方の講演をお聞きしました。私も将来、デジタル業界で世界で活躍したいという夢があり、講師の方はそんな私の目標の姿と言ってもいいような方でした。この講演で

は、私の将来の夢に対する意思が固まり、さらなるモチベーションの向上へと繋がりました。

生徒 11

私がこの研修で特に印象に残っていることは人の温かさです。私はこの韓国研修で今も連絡を取り続けるようなかけがえのない友達を多く作ることができました。韓国に着いたとき、想像以上のおもてなしにとっても驚きました。バスでの食事のおもてなしから壮大な歓迎会まで、私はとても感動しました。歓迎会の途中も、後ろにいる子達がたくさん話しかけてくれました。その中に日本語がとても上手な大柄な子がいて、私を気にいってたくさん喋ってくれました。その子が、私が伝えずらそうにしていることを、みんなに説明してくれて、とても助かりました。

3日間しか関わっていないはずなのにお互いを知り、理解し合い、最高の友達になることができました。思い出を思い返すと今でも涙が出ます。私は今でもその友達と連絡を続け、明日ゲームをする約束もしました。私はこの友情が一生モノになることを確信しています。彼らはもう日本に来ようと計画を立ててくれています。正直行く前はこんなにかげがえのない友達がたくさんできるなんて夢にも思いませんでした。改めてこの研修を支えてくれた皆さんに敬意と感謝を示し、将来も彼らと国際的な交流を続けると共に、何かしらの形で世界で活躍する立派な人材になりたいと思っています。